

ヒルフェ通信(11月号)

❖ そっと寄り添いやさしくサポート ❖

「公益社団法人成年後見支援センターヒルフェ」は高齢者、精神障がい者、知的障がい者等の権利の擁護及び福祉の増進に寄与することを目的として、東京都行政書士会が設立した法人です。



◆中央区立日本橋図書館・東京都行政書士会中央支部共催のセミナー参加報告

令和7年9月20日(土)、中央区立日本橋図書館・東京都行政書士会中央支部共催のセミナー、『はじめる終活』～先にそなえるいろはのい～を見学させていただきました。

今回のセミナーは寸劇形式でおこなわれ、一般的な講義や説明会とは異なり、登場人物たちの抱える困りごとや心の動きを通して「終活の必要性」や「専門家に相談する意義」を自然に理解できる構成が印象的でした。

遺言や後見といった制度の話はどうしても難しく聞こえがちですが、劇中ではそれらが暮らしや家族の関係の中で、誰にとっても身近な課題であることが伝わってきました。参加者の方々は熱心に寸劇をご覧になり、相槌を打ちながら解説に耳を傾け「自分ごと」として受け止めている様子を感じられました。

また、会場が図書館という日常的な場所でもあり、終活という少し重いテーマにも抵抗なく参加でき、さらに講師の方から参考図書が多数、紹介され、その書籍を借りて帰ることで、セミナーのふり返りやご家族で話すきっかけができるというのも素晴らしい企画だなと感じました。

寸劇では中央支部の先生方に加えて、ヒルフェの会員も演者として参加しており、心の中にある熱い思いを込めた演技の様子が印象的で、この日のために念入りな準備をされてきたことが伺われました。

成年後見制度を含め終活支援に関わる私たちにとって、制度を説明することだけが大切なのではなく、大事なのがご相談者の気持ちに寄り添いながら、「どんな一歩を踏み出せるか」を一緒に考えていくことだと、今回のセミナーは、まさにその大切さを思い出させてくれる貴重な学びの時間となりました。(広報理事 萩原 貴子)



◆行政書士制度広報月間



毎年10月は「行政書士制度広報月間」で、東京都行政書士会では10月を中心に9月～11月に相談会をはじめとしたいろいろなイベントが開催され、ヒルフェも協力しております。

9月26日に新宿駅西口広場で開催された東京公証人会合同相談会「遺言・相続手続き・成年後見無料相談会」や、10月9日、10日に都庁で開催された「暮らしと事業の無料相談会」にはヒルフェからも相談員を派遣いたしました。各支部で行われる相談会やイベントでも、それぞれにヒルフェの会員も参加・協力しております。

また、上記報告にもありますように、中央支部では、地元の日本橋図書館と共催で毎年セミナーを開催し、ヒルフェも後援という形で協力させていただいています。なお、曳舟図書館では、広報月間に「行政書士コーナー」を設置していただき、ヒルフェのリーフレットも置いていただいております。

また、今年度はヒルフェ広報部主催のセミナーが新宿地区で開催されます。今回、この広報誌が発刊されるころには終了しているかと思われませんが、執筆している現在は準備を鋭意進行中です。次号でご報告させていただきます。

その他にも、目黒地区のケアマネジャーや福祉関係の方々の勉強会からヒルフェに講師依頼をいただいたり、多摩西部地区の瑞穂町から寸劇を使った成年後見制度の普及セミナーの依頼をいただいたり、ヒルフェに立て続けにご連絡をいただきました。

各地区の会員の努力や、涉外活動が少しずつ実ってきたように感じます。いろいろな依頼に対して、期待に副うべく、体制を整えて参りたいと思います。(広報理事 高山久美子)

